

# 緊急座談会

# 中国・新人類たちの闘争 鄧小平の思惑超えた



写真1 上海の道路を埋めた数千人の行進 (右) / 級友の釈放を求めてデモする北京の学生 (左) / 北京大学で新聞を燃やす学生たち (右下) / 鄧小平顧問室主任 WWP、ロイター・サン、中国通信

昨年十二月初めから中国の主要都市に波紋を広げた学生の「民主化要求デモ」は、学生のイデオログだった知識人三人に党籍剥奪処分が出たのに続いて、十二日、ついに改革派の胡耀邦総書記の辞任説も流れる事態となった。天安門広場をデモ行進した「文革を知らない学生」たちを駆り立て、中国を動かし始めたものは何か。

— 今度の学生デモについて、はなかつた。それで非常にびっくり。まずどんな印象を受けましたか。 りしているんです。  
中嶋 最初にデモが起きたのは、ただ、いまの中国は現代化政策十二月五日。その直前に私は北京のなかで、民主化とか政治改革とヘシンポジウムで行ってたんです。いう、かなり高度なスローガンをが、そのときは全くそんな雰囲気 掲げているにもかかわらず、現実

### 〈出席者〉

中嶋 嶺雄 (東京外語大教授)

矢吹 晋 (横浜市立大教授)

西園寺 一兎 (朝日新聞調査研究室)

司会 横堀克己 (朝日新聞外報部次長)

はあまりにも問題が多い。だから、起こるべくして起きたという気もする。

矢吹 私は意外ではないです

- 12月 安徽省の省都合肥市で中国科学技術大学の学生ら約2000人がデモ。同省人民代表大会委員の選挙で、学生が支持する人物の立候補が認められなかったのが原因。
- 5日 湖北省の省都武漢市で学生2500人のデモ。
- 14~15日 中国最大の経済特区深圳の深圳大学で、学生約1000人が授業料と寮費の値上げに反対して抗議集会とデモ。
- 19日 上海で学生約2000人がデモ行進。この日までに学生デモは安徽、湖北、湖南、雲南、広東、江蘇、甘粛の7省に広がる。
- 22日 デモの発火点になった中国科学技術大学に万里副首相が派遣されたことが明らかに。万里氏は「民主化運動のイデオログ」といわれる方励之副学長とも会談、方氏は大学への行政の強制的介入を批判したといわれる。
- 23日 北京大学の学生が「上海の同志たちと連帯するため」市を平和的に行進。
- 26日 北京市が無届けデモを規制する条例を公布。
- 27日 北京大学構内の壁新聞に、「共産党」と「君主」を置き換えれば封建主義時代と何も変わっていない、との党批判が登場。
- 29日 「人民日報」が論文で、党の指導に反対する民主化要求は許されず、そうした言動は憲法違反だ、と指摘。
- 30日 国家教育委員会の何東昌副主任が「デモ参加者は200余万の大学生の2%にも満たない」と発言。
- 1月1日 北京の天安門前で、学生が「デモの自由」などを叫んでデモ。うち数人が警官に連行された。
- ~2日
- 5日 「北京日報」の報道に不満を持つ北京大学の学生たちが、学内で同紙を燃やして氣勢を上げる。
- 6日 「人民日報」が一面トップの社説で「学生デモの背景にはブルジョア自由化思想の氾濫があり、そうした思想的傾向に明確な態度で反対しない一部の同志が存在する」と指摘。また中国共産党のニューリーダー胡啓立政治局員が、科学技術大学の方励之副学長を「中国のサハロフ」と激しく批判したことが明らかに。
- 7日 鄧小平氏が、民主化運動の鎮静化のために積極的な方策を講じるよう、指示したことが明らかに。
- 10日 党指導部が、方励之副学長、作家の王若望氏、ルポ作家の劉賓雁氏の3人を、学生を煽動した人物として党籍剝奪処分にしたことを伝達。

中嶋 私が出たシンポジウムは「科学技術と現代化」というテーマだったんですが、私は日本で発言するのと同じことを率直にいった。近代化とか工業化というのは資本主義社会だからうまくいくの

西園寺 もともと北京にあった大学ですが、文革の後、林彪の命で多くの学生が地方に追いやら

ね。経済改革の中で昔からの矛盾と改革に伴う矛盾と両方出てきて、中国社会には矛盾が充満してましたから。たとえば、インフレや官僚主義の問題、あるいは党幹部の特権など、改革すべきだという要求は非常に強い。もうひとつは、去年の春ごろから「百花齊放」三十周年ということで、改革派の論客たちの書くものが非常にラジカルになっていた。

で、社会主義をとっている限り無理ではないか、と。反論が起ころうかと思ったら、むしろ中国の人民大学の人が同じような発言をし始め、パーティーでも知識人たちが次々に握手を求めてきて「よく聞いてくれた」というんです。中国社会科学体はあまり変わらな

## 改革のメッカだった合肥市

ハイチに次いでワースト・ツーだ」といって学生にかなり影響を与えた。こういうふうに知識人や教育を冷遇しているところは近代化はできない、という論理で、これが多くの共感を呼んだ。

これはひとつは方励之という人がいたということが非常に大きいと思うが、もうひとつは科学技術大学が名門中の名門で、高級幹部などエリートの子弟がかなりいて、たいへん情報に通じていたということ。党中央の情報も海外の情報も持っている。だから、素早く反応できたと思うんです。

中嶋 合肥は、文革のときもけっこう活発で、いろいろ焦点になったところですね。

矢吹 いま中国で行われている改革のひとつのメッカでもある。農業の生産責任制が安徽省から起き、全国に広がった。副首相の万



中嶋 謙雄氏

里はその第一書記をやっていたんです。

政治改革の面でも、万里は科学技術大学と連絡をとっているいろんなことをやった。方励之副学長がこれだけ元気なのも、万里がいるからなんです。万里にせよ、あるいは趙紫陽首相にせよ、政治改革をどうやったらいいか、具体的なことをみんなで検討してくれと問題を出しているわけでしょう。それに応じていろいろ動き始めた。それがたまたま改革派幹部の思惑を越えたというようなことだろう。

——中国の学生はみなエリートで情報もたくさん持っている。その彼らが運動を始めるからには、相当な確信と目的意識を持って、横のつながりもあるように思えるが、現実にはそれぞれの要求はばらばらだ。彼らがデモに参加する動機はどのへんにあるのか。

西園寺 変な言い方かもしれないが、中国にも「新人類」が出てきたんだなと思いたね。



矢吹 晋氏

ないんですが、北京に住んで北京大学に通った私の体験からいっても、彼らの考えはわからない。いまの学生は非常に価値観が多様化し、個人主義的になっている。これは文革のひとつの反動でもあるんでしょうが、ある意味で非常に脱政治ですね。

彼らは歴史を知らないというかあまり重視しない。中高年の人が「昔は非常に苦しかった」「われわれは苦勞しながら中国をつくってきた」というと、若い人は「ナセンス」だという。昔苦しくていまはよくなったというのは、なにも中国だけじゃなく、日本だっ

中嶋 上海の学生がいつていたことは、風呂に入らせよ、大勢いるのにシャワーが一つしかないといった、非常に身近な要求だった。合肥の場合は選挙の立候補者に対する問題だった。発端になるモチベーションはいろいろ違って



西園寺一晃氏

同じだという答えが返ってきた、とても教育しにくいという。

それに、中国共産党とか党の指導者というものに対する感覚も全然違いますね。一時代前の文革時代は、党や指導者のいうことは絶対であったが、いまは党とか指導者の権威は非常に落ちた。彼らが何をいおうと、別にそれをすぐ聞かなくてもいいと思っている。

風俗、持ちもの、着るもの、食べもの、遊ぶものも全然昔と違ってきている。だからこそ、彼らは非常に多種多様な要求を持っている。それが何かの機会に爆発するという形で出てくる。

中嶋 上海の現状をみると、だけど、中国の現状をみると、鄧小平の中途半端な改革もたらず矛盾があり、火をつければワッと燃え上がるような必然性はあったと思うんです。そうすると、いったいこのデモは自然発生的に

## デモの背後に政治意図は…

広まったのか、そこに政治の意図があったのかどうかという問題がひとつのポイントだと思う。

もし、政治の意図があるならば、北京でことを起こすのは好ましくない。いままでの経過からしても、明らかに中国共産党の中には路線闘争みたいなものが見えてくるわけですからね。その意味では地方で起きて、だんだん北京にいったという形は、意地悪な見方をすれば、非常に自然発生的性を装っていると思う。

しかし、政治の意図だけでこんなに大きくなるはずはないわけで、状況が熟してきて、そこにいろいろな形で火がついた、それを政治の論理が取り入れていったパターンが、十二月初旬から二十五、六日ぐらいまではあったような気がするんです。民主化ということをいわゆる改革派の人たちがいつているわけですが、一挙にそういう方向にいくためにも、学生が少し騒いでくれたほうがいいというようなある種の期待感はあるんじゃないかと思う。

——十二月の末くらいで、この学生運動が初期の段階から次の段階へ移ったということですが、それは改革を進めようと、ある程度学生運動を容認していた指導層が

何らかの恐怖を感じたのか、それとも保守派の反撃が非常に強くてそうせざるを得なかったのか。

中嶋 その両方だと思うんです。たとえば、保守派——私は原則派と呼んでいるんですが——この人たちはそれみたことかというふうに思う。現に鄧力群（書記局書記）みたいに、いったん宣伝部長を退いていた人が、この学生運動を経て、再びいちばん重要なプロバガンダの部署に返り咲いてきた。これは、保守派の勢力が意外にあなどり難いことを示すとともに、鄧小平（顧問委主任）、胡耀邦（総書記）、胡啓立（政治局員）といったいわゆる改革派の人たちが、その改革の問題点や矛盾から、自ら危機的な状況に陥ってきているということがあるのではないか。

現在の中国は鄧小平体制がすべたうまくいつているわけではな。行き過ぎと思われる経済改革は、毛沢東型モデルから百八十度違った方向に急激にそれ始めていくわけで、それがもたらすいろいろな無理がある。一昨年の中国共産党全国代表会議でも、最後は保守派といつか原則派の陳雲（政治局常務委員）と鄧小平の二人が全く違うことを演説して終わった。

こうした明白な路線対立があった、それが学生運動にオーバーストアップしている、この運動はより複雑で、より重要だという気がするんです。

矢吹 改革派と保守派の軋線は彼らが七八年の三中総で権力を取って、その後八二年の十二回党大

会で基本的に自分たちの体制を固めた途端に始まっている。

八三年の「精神汚染」キャンペーンがそうだったし、八四年に経済改革が採択されると、ワツと経済の自由化が進んで、ヤミが

出る、所得格差が広がる、インフレだということでブレイキがかかっ

# 第51回懸賞募集パロディ テーマ——珍編日本史

みんなで、まったく新しい、

日本史の教科書をつくってみませんか。副題は、たとえば、「珍編日本史」、あるいは「抱腹絶倒日本史」となんでもよろしいのですが、編集方針は揺るぎなきユーモア精神と不逞の風刺強です。紫式部と清少納言が

取っ組み合いの喧嘩をしたあげく、筆で決着をつけることになり、その結果、あの二大作家が生まれたのだ、信長の正体は外国人宣教師であったのだ、荒唐無稽で愉快な史観から傑作をも

のしてください。

一、締め切り 二月二十日 (当日消印有効)

なお、入選作の著作権は朝日新聞社に属し、応募原稿は返却いたしません。週刊朝日編集部

二、字数 四百字程度

三、誌上匿名可(郵便番号、住所、氏名、職業、年齢、性別、電話番号を明記し、匿名希望はペンネーム付記のこと)

四、あて先 〒104東京都中央区築地五—三—二 朝日新聞社「週刊朝日」パロディ係。

五、審査員 丸谷才一、井上ひさし、木下本誌編集長。

六、賞金 一席 二編各三万円、二席 三編各二万円、佳作五編各二万円

七、発表予定 三月下旬発売号。

なお、入選作の著作権は朝日新聞社に属し、応募原稿は返却いたしません。週刊朝日編集部

た。そこで経済だけではだめだ、精神文明をというので、八五年の

党代表会議では鄧小平と陳雲が別なことをいいた。その一年後の昨年の「精神文明」決議は、その折衷として出ているわけです。

今度の学生デモは、「精神文明」決議で保守派がかなりがんばっているところをみて、危機感を感じた学生たちが改革派を激励した。しかし、その意図とは逆に、ひいきの引き倒しみたいになり、かえって保守派を力づけることに

なった。

——デモの結果、学生の理論的な後ろ盾になった方励之科学技術大副学長と、ルボ作家で人民日報記者の肩書を持つ劉資雁氏、上海を舞台に作家・評論家をしている

王若望氏の三人に対して党籍剝奪処分が出された。この制裁措置は鄧小平の指示によるものとされてい。となると、学生たちのいま置かれている状況は、最初の思いとはずいぶん変わってしまったことになる。

## 引退しにくくなった鄧小平

西園寺 私が思いつくのは、七八七九年のいわゆる「民主の壁」のときのことで。あのときは若い人たちが「大字報」を壁に張ったり、デモしたりして、初めは「四人組」をやっつけていた。

その段階では鄧小平たちは「大いにやれ」と支持したが、学生たちの要求がある線をごえ、矛先が党、政府の指導に向けられたとき

に、完全に弾圧する側に回った。今度はそれと非常に似ているんです。初めは胡啓立にしても鄧小平にしても、悠然と構え、むしろ

ぶりにいっていた。ところが、学

生たちがいつているように、鄧小平も陳雲も「四つの基本原則」をこえようとしたときに一緒に成って抑え込む。

中嶋 党中央では両派の違いは非常に重要だが、恐らく学生の目からみれば「同じ穴のむじな」とみえるでしょう。いずれも劉少奇ラインの忠実な後継者だし、幹部の不正ということであれば、鄧小平だって陳雲だって、みんな自分の子をアメリカに留学させている、と。

しかし、今回の党の除名が本当だとすると、学生運動は大きな転機を迎えるんじゃないですか。学生はまだまだ不満はあるでしょうが、運動は、ひとつのピークをこえた。ただ、結果的には何も問題を解決していない。しかも問題点が非常に明確になったことで、今後中国は長期にわたって、民主化なり自由という問題について悩むでしょう。

——今年秋に予定される十三回党大会での政治改革は、いままでも鄧小平が進めようとしていたものとは相当違うものになる？

中嶋 はい。十三回党大会で鄧小平体制がいわゆる改革派中心に固まるかどうかということも難し

くなくてくるんじゃないですか。  
西園寺 学生側にはかなり混乱が起ると思いますがね。運動は少数先鋭化し、一部は地下にもぐらんじやないですか。私は今度の三人の処分で、むしろいちばんショックなのは知識人、言論人だと思つた。こつちのほうがもっと深刻ですよ。それに、なんやかんやいっても、結果的に鄧小平の地位は向上すると思う。結局、鄧小平がいなければ何も收拾できなかったんじゃないか、と。十三回党大会では鄧小平を含む長老が引退しにくくなったという気がする。

矢吹 私はお二人よりも少し楽観論かもしれないが、秋までには空気が変わるんじゃないかと思う。学生に対する弾圧というか規制は一時的で、これで改革が大き

## 上海で大モテのVOA記者

矢吹 ですから、経済改革から政治改革への流れは一貫していて、ただ、ちよつと一時的な後退、一歩前進、二歩後退か、そのへんの感じだろうと思います。

それと今度のデモでも、たとえば、VOA(ボイス・オブ・アメリカ)放送はじゃんじゃん報道し、学生側もそれがいじゃん正確

表としての顔と同時に保守派とのバランスの顔を持っているからなんです。保守派から見ると、胡耀邦に完全に移ると改革がグッと進む。そこにブレーキをかけるために鄧小平をつかむしかない。その意味では基本的には改革派が圧倒的に押ししているとみている。

中嶋 そのもも顧問委員会の主任がすべてを牛耳らなければいけないという体制そのものが、自然ですよね。本当は十二回党大会でパトントンタッチしたはずなのに。

矢吹 そのあたりが、いまの中国における民主主義の程度なんじゃないですか。毛沢東が努力してできなかったし、鄧小平が努力しても、その程度しかできない。ただ、毛沢東時代とたしかに似ている面はあるが、他方変わっている面もかなりある。その両方を含めて、そのへんがいまの中国にお

中嶋 このごろ、鄧小平のピエロピアが毛沢東に似てきたでしょう。ちよつと不快に思うのは、「人民日報」なんかを読むと、

ける民主主義の具体的な形ということでしょ。

中嶋 今度、竹下さんも中国へ行ったし、中曽根さんは昨年十一月行ったが、中国はすべて安泰で、日中友好ですべてうまくいっているというようなバラ色のビジョンで簡単に中国を語ってほしくないですね。

とくに、この間の中曽根訪中で、新聞は報道してないと思うが、彼は明治維新のときも日本は改革派ががんばってロシアをやっつけたんだというようなスピーチをしている。これは非常にまずいことですよ。内政にコミットするようなアジ演説をやってきちゃったわけで、そのへんはやつぱり中国を甘くみていたんでしょね。

構成 本誌・五十嵐文生



## ストレスからくる神経性胃炎に...

# 太田漢方胃腸薬

(効能) 神経性胃炎、慢性胃炎、胃アトニー、やせ型で腹筋弱が弛緩する傾向にあり、胃痛または腹痛があつて、ときに嘔吐、げっぷ、食欲不進、はきけなどを伴つ前記の諸症



200包入980円  
400包入1,650円



株式会社 太田胃散